

短期予報解説資料 2026年2月17日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 発達した低気圧が千島近海にあって北東進。寒冷前線が日本の東にのびている。日本付近は低気圧や前線と、大陸から張り出す高気圧との間で気圧の傾きが大きく、強い風が吹き波が高い所がある。
- ② 500hPa 5460m付近のトラフが能登半島の西にあって東南東進。東海道沖～伊豆諸島にのびるシアーラインの北側には降水域が広がり、東日本では雨や雪が降っている所がある。
- ③ 低気圧が沖縄付近にあって東進。低気圧周辺では局地的に1時間に20～30mmを解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は17日にかけてカムチャツカ半島付近を北東進し、日本付近から遠ざかる。一方、高気圧が17日は日本海から日本の東に移動するため、本州付近は高気圧におおむね覆われる。
- ② 東日本の降水域は1項②のトラフが日本の東に進む17日朝以降は弱まる。シアーラインは17日夜までに不明瞭となるが、シアーライン周辺や①の高気圧の縁辺ではやや強い風～強い風が吹き、波が高い所がある。東日本～西日本では17日は強風や高波に注意。
- ③ 1項③の低気圧は17日朝にかけて南西諸島を通過し、18日にかけて日本の南を東進する。低気圧周辺では大気の状態が不安定となるため、南西諸島では17日は落雷や突風、急な強い雨に注意。低気圧通過後、東シナ海では華中から張り出す高気圧からの北よりのやや強い風が続き、波やうねりが高い所がある。南西諸島では18日にかけて高波に注意。
- ④ 500hPa 5100～5400mで-39～-27℃の寒気を伴うくさび状に深いトラフが18日～19日に北日本～東日本を通過する。対応する低気圧が前線を伴って発達しながら日本海を東北東進し、北海道付近を通過して19日はオホーツク海に進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って雪や雨が降り、降雪量が多くなる所がある。北日本～北陸地方では、18日～19日は大雪や着雪、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。また別の低気圧が日本の東を18日～19日にかけて急速に発達しながら北東進する。これらの低気圧周辺及び日本海に移動する高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くしける所がある。北日本～西日本では、18日～19日は風雪や強風、高波に注意。
- ⑤ 北日本～西日本の積雪の多い地域では、降雨等の影響で変質した積雪面の上に、新たにまとまった降雪量となる所があり、新雪なだれのおそれもある。北日本～西日本の積雪の多い傾斜地では19日にかけてなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。

- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島・北陸・近畿・中国・四国・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。